

土浦城太鼓櫓の妖怪

高木 福三郎

それは江戸の末期の頃だったといえます。いま残っている太鼓櫓のあたりに夜な夜な妖怪が出て、恐ろしいうなり声を上げるので、人々がとても気味悪がっていた事がありました。そこで土浦藩の侍で、鉄砲の名人であったという閑というお方が、ある夜火縄銃を持って妖怪退治に出掛けたんですが、風の強い晩で、果して異様な呻り声が楼門のあたりから聞こえてくる。しかし姿は見えない。そこで閑という侍は、呻り声のする方角に狙いを定めてバーンと打った。すると呻り声はびたりと止んだ。さては妖怪は弾に当って死んだらしいという事になったんです。そして夜が明けてから一同が太鼓櫓に登って妖怪の死体を探しに行つたんですが、どこにもその姿がない。さてはと思つていろいろ調べてみると、何と、鉛の弾が、窓の開き戸の肘金に当つていたんですね。妖怪の呻り声は、実は錆でうまく動かなくなつた肘金と肘壺がこすれて鳴る音だったというわけです。しかし、閑という侍は、闇夜の鉄砲でその的を射当てたというので、

全国に名が轟いたそうです。

桜川とその附近の

史蹟を探る（第四回）

永山 正

1 八幡塚古墳

筑波郡筑波町沼田にある。筑波山の正南麓筑波駅背後の畑中に東西に横たわつている県下でも代表的な前方後円墳の一つで県指定史蹟である。全長一二〇メートル後円部の高さ八メートル、同径二〇メートル、前方部の大半は既に失われ畑となり住宅ができています。後円部は比較的原形をとどめここにも八幡宮が祀られていたので八幡塚と呼ばれている。後円部から埴輪が出土している。この古墳から西北約一二〇メートルの所に陪塚（円墳）がある。筑波の国造筑筑命の墳墓と推定されている。

2 神部条里の跡

条里制というのは大化改新の結果土地国有制となつたのでその土地（田）を人民に終身貸し与えることにしたのであるが、その広さは六才になつた男には二反女子にはその三分の二というように貧富の差をなくす